



今月の大槌びと

田中 宏美さん(33歳)

大槌町地域子育て支援センター「かりん」のスタッフとして働く田中さん。まだ知らない人も多い支援センターをもっと活用してほしいと語ります。

子育ては一人じゃできないママたちの情報交換の場に

「かりん」とは、どのような場所なのですか？

田中さん(以下田)ーセンターには、未就学児のお子さんの保護者が、子どもと一緒に来ます。集まったお母さんたちが、子どもたちを遊ばせたり、制作をしたり、お母さん同士の情報交換ができたりする場所です。



「かりん」の良いところは何ですか？

田ーみんなの目があるのですね、いつも一人で子どもを見ているお母さんにはそれだけで安心感があると思います。お母さん同士で話す事で息抜きにもなるし、悩みを話したり、他ではどうしているか聞けたりします。私も子どもがいますが、子育ては一人ではできないと痛感しているの、こういう場が大事な役割を果たしていると感じます。

子育ての喜びを自分の子のように共有しています

仕事をしていた一番嬉しい時はどんな時ですか？

田ー小さいお子さんが来るので、センターにいる間に、寝返りが出来る様になったり、立てる様になったり、返

事ができたり、という瞬間に立ち会えます。私自身、子どもは母に面倒を見てもらって働いていたので、我が子のそういう場面を見逃して(笑)。だから余計に嬉しいです。そして、その瞬間を来ているお母さんたちみんなが喜び合うのが、とても好きです。

仕事のやりがいはどこに感じますか？

田ーどのくらい力になれるかはわかりませんが、お母さん達にもっと利用して、子育ての喜びを共有したり、悩みを吐き出したりしてほしいです。「私だけじゃないんだね。」というホッとした声が聞けた時は、この仕事をしていて良かったなと思いますし、そこにやりがいを感じています。

※「かりん」の活動予定は、9ページに掲載しています。



1月号 たかしみず 高清水あいりさん

3月号 たなかひろみ 田中宏美さん

前号と今号の大槌びとが対談するコーナーです。様々な分野で活躍する大槌びとの皆さんが、誌面の上で出会います。「たし算」ではなく、「かけ算」の絆が、また新たな大槌を創っていきます。

田中さん(以下田)ーアメリカへのホームステイに行くんですけど、自分で希望したんですか？

あいりさん(以下あ)ーはい、行ってみたくて親にお願いして応募しました。

田ーすごい。自分が高校生の時は考えもしなかった。英語の先生のおかげで英語が好きになったので。

先生からも親に勧めてもらいました。

田中さんも大槌高校出身。先輩にあたりますね？

田ー私はこんなに真面目じゃなかったです(笑)。ここで知り合ったのも何かの縁ですので、ぜひ今後何か交流していただきたいです。

田ーボランティアなどをする部活動に入っているそうですね、ぜひ今度「かりん」にお手伝いに来てください。制作をしたり、楽しいと思います。

あーぜひやってみたいです。今年の6月には部活も引退なので、その前に。でも子どもにはいつもバカにされるんですよね...(笑)。

実現したら、ぜひ取材させてくださいね。

二人ーお願いします！

